

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 お気に入りの俳句の鑑賞会を開こう

2 単元目標

- 俳句を進んで音読したり、暗唱したりしている。 (関心・意欲・態度)
- 俳句から伝わってくる情景を想像しながら音読することができる。 (読むこと)
- 俳句の基本的な特徴について知り、季節や情景を思い浮かべたり、五・七・五のリズムや言葉の美しい響きを感じ取りながら音読したりできる。 (言語についての知識・理解・技能)

3 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読むこと	言語についての 知識・理解・技能
・俳句を進んで音読したり、暗唱したりして俳句に親しもうとしている。	・俳句を読んで、伝わってくる情景を想像しながら音読している。	・俳句の基本的な特徴について知り、季節や情景を思い浮かべたり、五・七・五のリズムや言葉の美しい響きを感じ取りながら音読したりしている。

4 単元について

(1) 本単元で扱う言語活動

本単元では、「C 読むこと」の言語活動例「ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。」を具体化し、「春と夏のお気に入りの俳句の鑑賞会を開こう」という活動を設定する。

児童はこれまでに、1年生で「天にのぼったおけやさん」や、2年生で「かさこじぞう」「いなばのしろさぎ」などの昔物語に親しんできたが、文語調の文章に触れるのは初めてである。そこで、文語調の文章にたくさん触れ、リズムや独特な言い回しに慣れることが大切である。

そこで、単元を通して自分の「俳句帳」作りを行う。俳句帳には、教師のおすすめの俳句を載せたり、自分の好きな俳句を視写したりして書き溜めておく。その俳句を繰り返し音読したり、暗唱したりすることで、文語調の文章に慣れるようにしたい。また、俳句帳には俳句と一緒に「季語」や簡単な「俳句から思いうかぶこと」も記しておく。俳句帳に記しておくことで、俳句を読み返したとき、どんな俳句だったかがすぐ思い返せるだろう。

たくさんの俳句に触れていく中で、自分のお気に入りの俳句が多く俳句帳に残されていく。今まで書き溜めてきたお気に入りの俳句の中から一句選び、「短冊」を作って紹介していく。短冊の表には「お気に入りの俳句」を書き、裏には「俳句から思いうかぶこと」と「お気に入りの理由」を書く。選んだ俳句を暗唱し、どんなことがこの俳句から思い浮かぶかを、聞き手に尋ねたり、お気に入りの理由を紹介したりして、感想を交流する。グループは、4、5人とし、同じ句を選んでいないメンバーで構成する。グループごとの交流の後、全体での交流を行い、意図的に同じ句を選んだ児童を発表させる。同じ句を選んでも、お気に入りの理由が異なる場合があることに気付かせたい。自分のお気に入りの俳句を見つけることで、俳句により親しみを感じるだけでなく、他の人のお気に入りの俳句の紹介を聞いて、それぞれの俳句のもつ良さを知ることができるだろう。

今回は、「春」「夏」に絞ってお気に入りの俳句選びを行う。情景を思い浮かべる際、時期にあった俳句の方が想像しやすいと考える。今回の学習を生かして、後期の「きせつの言葉を集めようー秋・冬ー」を学習した際に、「秋」「冬」のお気に入りの俳句鑑賞会を行いたい。季節を大切に扱い、年間を通して俳句に触れ合う機会を作りたい。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元では、学習指導要領の[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]の「ア 伝統的な言語文化に関する事項」(1) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。」及び、「C 読むこと」における指導事項(1)「ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。」の指導を行っていく。児童が初めて俳句に触れるこの学習を通して、自ら俳句に親しもうとする姿勢を育みたい。

児童には、俳句帳作りを通してたくさんの俳句に触れさせ、音読したり暗唱したりすることで、「俳句」のもつ音の響きに触れ、それを楽しみ、俳句の世界に浸らせたい。また、解説や写真を手掛かりに、俳句の情景を思い浮かべ、日常生活と季語とのつながりに気付かせたい。

(3) (1) と (2) の基盤となる言語環境や継続的な取り組み

①教師の紹介のモデルを示す

単元の最初に教師が作成したモデルを示す。俳句の紹介である短冊のモデルを示すことで、単元のゴールを明確化し、どのようなものかイメージしやすくさせたい。また、教師のお気に入りの理由を聞いて、俳句は17音しかないが、情景を思い浮かべることのできる奥深いものであるということも感じ取らせたい。

②日常的な取り組み

たくさんの俳句に触れる機会を作るために、自分の「俳句帳」作りを行う。俳句帳には、本や俳句かるたで見つけた自分の好きな俳句を視写して書き溜めておく。家庭学習などの取り組みでその俳句を繰り返し音読したり、暗唱したりすることで、文語調の文章に慣れるようにしたい。また暗記した俳句のページにはシールを貼ることとし、意欲的に暗唱に取り組めるようにする。

③たくさんの俳句に触れるための環境づくり

たくさんの俳句に触れることができるように、教室に「俳句コーナー」を設置する。朝読書の時間に読んだ俳句の中から、自分の好きな俳句を俳句帳に書き留められるようにしたい。また、「俳句かるた」を学級で行い、楽しんで俳句に取り組めるようにしたい。

5 児童の実態 (略)

6 単元の指導計画 (5時間扱い)

時配		学習活動と内容	指導や支援の手立て ◇評価
第一 次	1	<p>○作品を繰り返し音読し、言葉の響きやリズムを感じながら俳句の特徴を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五・七・五音でできている。 ・季節を表す言葉がある。 ・俳句は日本人が昔から親しんでいる。 <p>○「春と夏のお気に入りの俳句の鑑賞会を開こう」という学習の見通しをもつ。</p>	<p>「俳句帳」作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親しんで取り組めるように、川柳作りをした経験を想起させる。 ・単元のゴールがはっきりわかるように、教科書の俳句から選んだ俳句の紹介のモデルを示す。 ・お気に入りの俳句を見つけるために、自分の「俳句帳」を作ろうと呼びかける。 ・教師の俳句帳の見本を参考にして、教科書の俳句の中から自分のお気に入りの俳句を俳句帳に書かせる。 <p>◇学習の見通しをもち、主体的に学習に取り組もうとしている。(関・意・態)</p> <p>◇俳句の基本的な特徴について知り、五・七・五のリズムや言葉の美しい響きを感じ取りながら音読している。(言語)</p>
第二 次	2	<p>○教科書にある俳句を、解説を読みながら、季節の様子を想像して繰り返し音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何度も声に出して読ませることで、俳句のリズムに親しませる。 ・俳句の解説を読んだり、写真を手掛かりにしたりして季節や情景を思い浮かべさせる。 <p>◇季節や情景を思い浮かべたり、五・七・五のリズムや言葉の美しい響きを感じ取りながら音読したりしている。(言語)</p>

	3	<p>○教科書にある俳句や自分の俳句帳の中から、お気に入りの春と夏の俳句を選び、短冊を作る。</p> <p>○選んだ俳句について、お気に入りの理由を考える。</p> <p>○お気に入りの俳句を暗唱し、紹介の練習をする。</p>	「俳句帳」作り	<ul style="list-style-type: none"> 俳句帳に書き溜めていたものの中から、俳句帳に書いていた「大好きレベル」を参考にしてお気に入りの俳句を絞らせる。 お気に入りの理由が書けない児童には「ことば」「思いうかぶこと」「行動」などに着目して考えさせる。 ◇言葉の響きに注目したり伝わってくる情景を想像したりしながら読み、お気に入りの俳句を選ぶことができる。(読む)
第三次	4	<p>○教科書にある俳句や自分の俳句帳の中から選んだ、お気に入りの「春」の俳句の鑑賞会を行う。</p> <p>○友達のお気に入りの俳句の紹介を聞いて気に入ったものは、俳句帳に書き加える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞会の流れを確認して、スムーズに進められるようにする。 「俳句から思いうかぶこと」「お気に入りの理由」は短冊の裏に書いて貼っておき、確かめながら紹介できるようにする。 全体で感想を交流し、次時で行う「夏」の俳句の鑑賞会の意欲を高める。 ◇お気に入りの俳句を紹介し合い、伝わってくる情景を想像しながら音読している。(読む)
	5 (本時)	<p>○教科書にある俳句や自分の俳句帳の中から選んだ、お気に入りの「夏」の俳句の鑑賞会を行う。</p> <p>○友達のお気に入りの俳句の紹介を聞いて気に入ったものは、俳句帳に書き加える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 紹介する際、聞き手に短冊を示しながら選んだ俳句を音読し、聞き手がどのような俳句かについて深く考えられるようにする。 鑑賞会の流れを確認して、スムーズに進められるようにする。 「俳句から思いうかぶこと」「お気に入りの理由」は短冊の裏に書いて貼っておき、確かめながら紹介できるようにする。 全体で感想を交流し、お気に入りの理由が異なる場合があることに気付かせる。 ◇お気に入りの俳句を紹介し合い、伝わってくる情景を想像しながら音読している。(読む)

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

お気に入りの俳句を紹介し合い、伝わってくる情景を想像しながら音読することができる。(読む能力)

(2) 本時の展開 (5 / 5)

学習活動	指導や支援の手立て ◇評価
1 前時の学習を振り返って想起する。	○単元計画表から、本時は「お気に入りの夏の俳句のかんしょう会をする」ことを確認する。
2 本時のめあてを確認する。	
お気に入りの「夏」の俳句のかんしょう会をしよう。	

<p>3 鑑賞会の流れを確認する。</p> <p>① お気に入りの俳句・作者名を音読する。</p> <p>② しつ問をする。</p> <p>③ 俳句から思いうかぶことをしようかいする。</p> <p>④ お気に入りの理由をしようかいする。</p> <p>⑤ 感想を発表し合う。</p> <p>⑥ 全員で俳句を音読する。</p>	<p>○紹介の仕方を確認して、スムーズに進められるようにする。</p> <p>○紹介をする際に、聞き手に短冊を示しながら話すように確認する。</p>
<p>4 クラスで4、5人のグループに分かれ、お気に入りの俳句を紹介し合う。</p>	<p>○「俳句から思いうかぶこと」「お気に入りの理由」は短冊の裏に書いて貼っておき、見ながら紹介できるようにする。</p> <p>○鑑賞会の流れの台本を示し、それを見ながら紹介できるようにする。</p> <p>○紹介する際、聞き手に短冊を示しながら選んだ俳句を音読し、聞き手がどのような俳句かについて深く考えさせるようにする。</p> <p>○鑑賞会が終わったところから、自分の俳句帳に、紹介された俳句の中で気に入ったものを書き足してよいことを伝える。</p> <p>◇お気に入りの俳句を紹介し合い、伝わってくる情景を想像しながら音読している。(読む)</p>
<p>5 夏のお気に入りの俳句を全体で発表する。</p>	<p>○紹介の仕方が上手だった児童を他薦させて指名する。</p> <p>○意図的に同じ俳句を選んだ児童を全体で発表させ、同じ俳句を選んでもお気に入りの理由が異なる場合があることに気付かせる。</p>
<p>6 本時の振り返りを発表し、今後の内容について確認する。</p>	<p>○鑑賞会で考えが広がった児童や楽しんで発表できた児童を意図的に指名する。</p> <p>○今後も俳句帳に書き溜めていってよいこと、後期では、「秋」「冬」のお気に入りの俳句鑑賞会を行うことを伝える。</p>